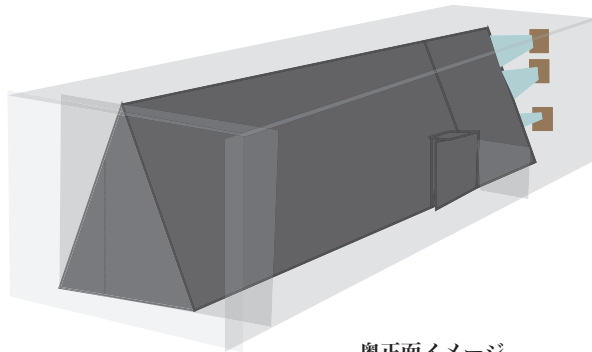


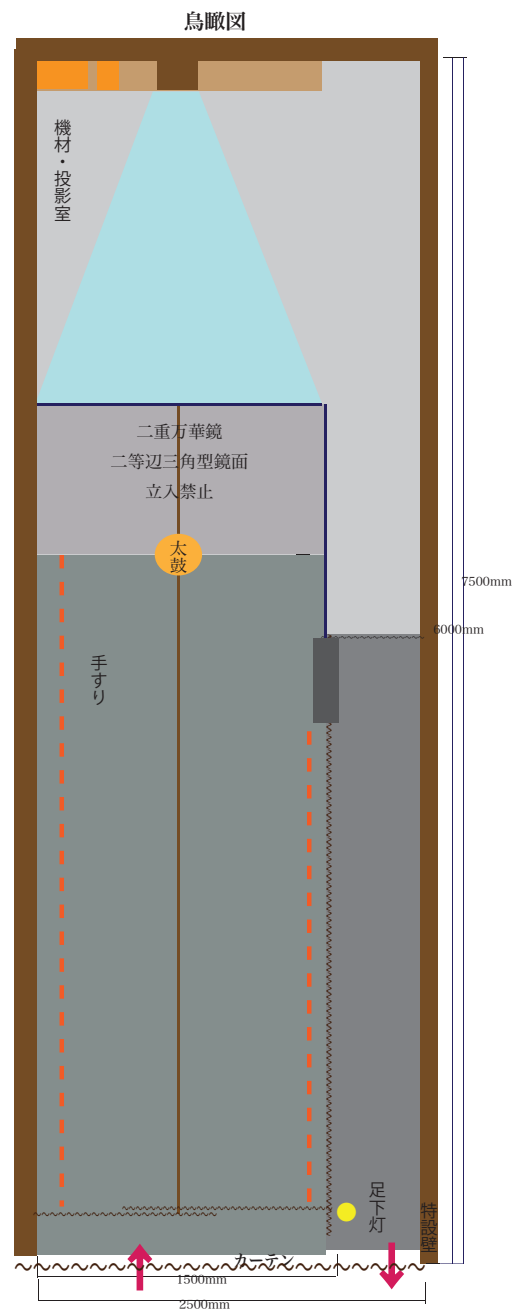
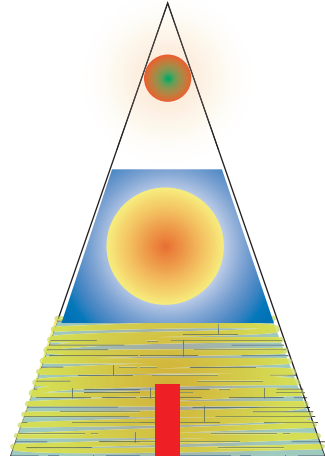
カレイドスコープ スケープ Ver.7「尖塔」概要と映像例

- 1) 制作時期：2011 年 11 月～2012 年 1 月（卒業制作）
- 2) 全体構造：二等辺三角形の巨大万華鏡に 2 種の万華鏡と太鼓、コンピュータ映像を縦に組み込む。
- 3) 各部の構造：
 - ① 正面スクリーン：①——上 部：テーバード式万華鏡のビデオカメラ映像
②——中央部：太鼓を打つ手の影の映像とコンピュータ画像の組合せ
③——下 部：二等辺三角形万華鏡のビデオカメラ映像
 - ② 建造物：ファサードには黒カッティングシートを貼ったベニヤ板に電飾を施す。
奥の部分は上質ミラーシート張り二等辺三角形巨大万華鏡
スクリーンはプラスチック製障子紙
 - ③ 主な使用機器：ビデオカメラ、プロジェクタ、コンピュータ、ジェンベ風 RAMO 製太鼓
 - ④ 使用機材：カーテン、ライト、足ふき、等々
- 4) コンセプト
 - ① コミュニケーション促進：閉じられた空間で万華鏡の美を共有することによってコミュニケーションの活性化を図る。
 - ② インタラクティブ性と身体性：参加者自身の手がオブジェクトとなり、発見の驚きと喜びを体感する。
 - ③ 視覚・聴覚・身体性の密な関係：中央部のオブジェクトは太鼓を打つ手の影、上部と下部の映像は太鼓の音によって動く。
- 5) 全体のイメージ

全体イメージ図



奥正面イメージ



6) 「尖塔」を構成する各万華鏡について

① 上部に設置

テーバード式 (図1)

太鼓の設置場所では上部に円形の映像が得られる。

色彩に尖塔のステンドグラスに光が差し込むイメージを持たせる (写真1)。

太鼓の響きによってオブジェクト容器が右廻りに回る。

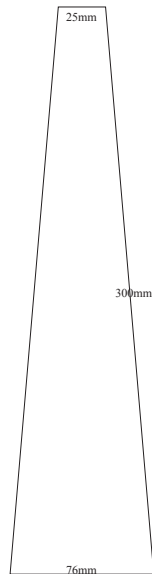


図1 テーバードの鏡の形状

写真1～3は正面スクリーン上の映像
これらの映像が建造物④の巨大万華鏡の
オブジェクトとして作用する。

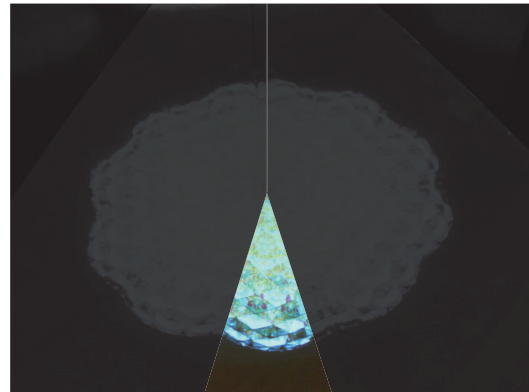


写真1 上部の円形の映像例

② 太鼓の中に仕組まれたカメラの映像が中央部に投影される。

奏者の手の影とプロジェクタによる背景の同時投影 (写真2)。

太鼓の仕組みは図2の通りである。

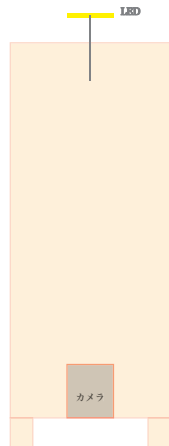


図2 太鼓仕組み

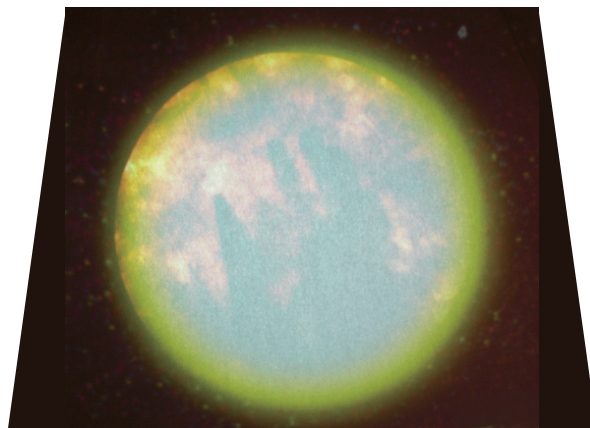


写真2 中央部の映像例

③ 下部に設置

二等辺三角形 (図3)

色彩的には森の中で出会う多様な自然のイメージを持たせる (写真3)。

太鼓の響きによってオブジェクト容器が左廻りに回る。

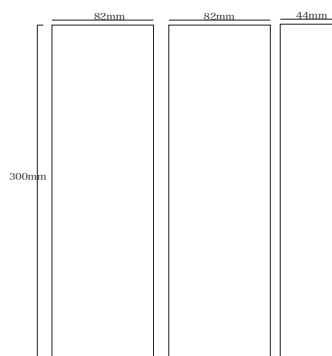


図3 二等辺三角形の鏡の形状

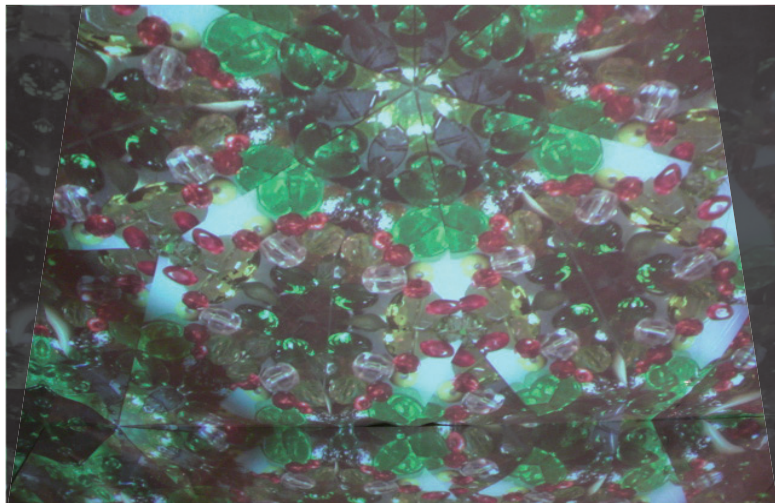


写真3 下部の映像例

④ 建造物の奥の部分。

①～③の映像が二等辺三角形に組み込まれた鏡面（図4）に投影され、無限空間を感じさせる（写真4）。

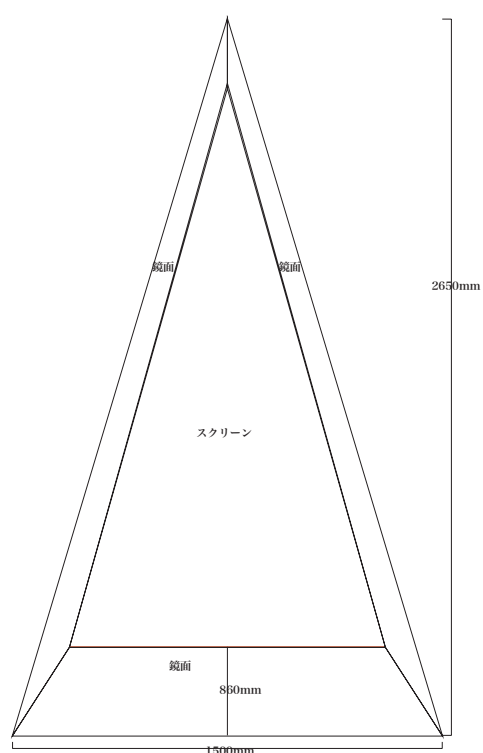


図4 二等辺三角形の鏡の形状



写真4 正面スクリーンの映像例

7) オブジェクト容器のメカニズム

①と③の万華鏡映像は太鼓の響きにに合わせて回る。モニターと動力にはレゴラボを用いる。接続と仕組みは写真5と6の通りである。



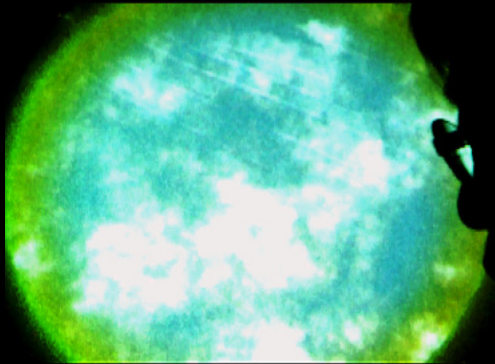
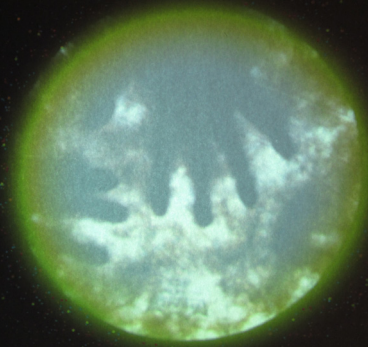
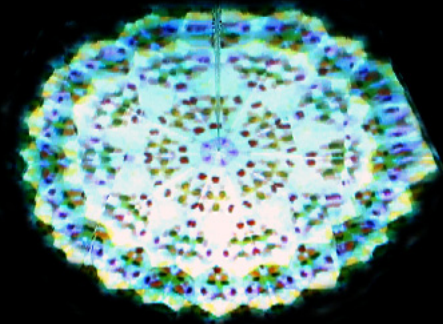
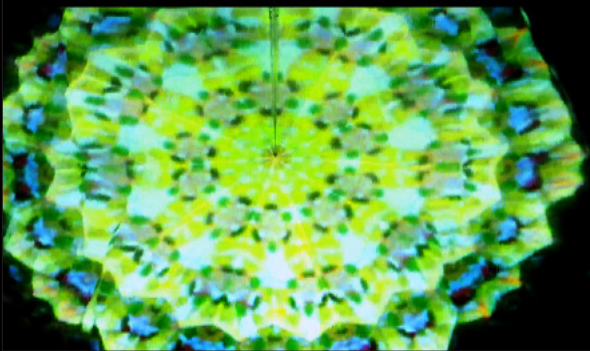
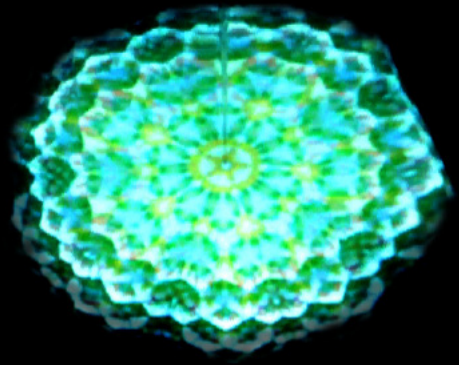
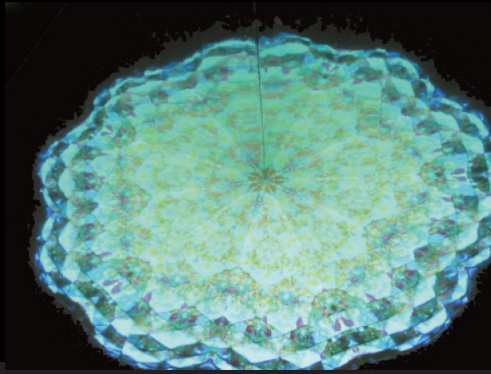
写真5 万華鏡①③とレゴラボ、マイクの接続



写真6 万華鏡①にカメラと
レゴラボを設置

8) 会期中の写真

次頁 ばら窓は万華鏡1の映像例：写真10～14
中央部の月のイメージと太鼓：写真15～18



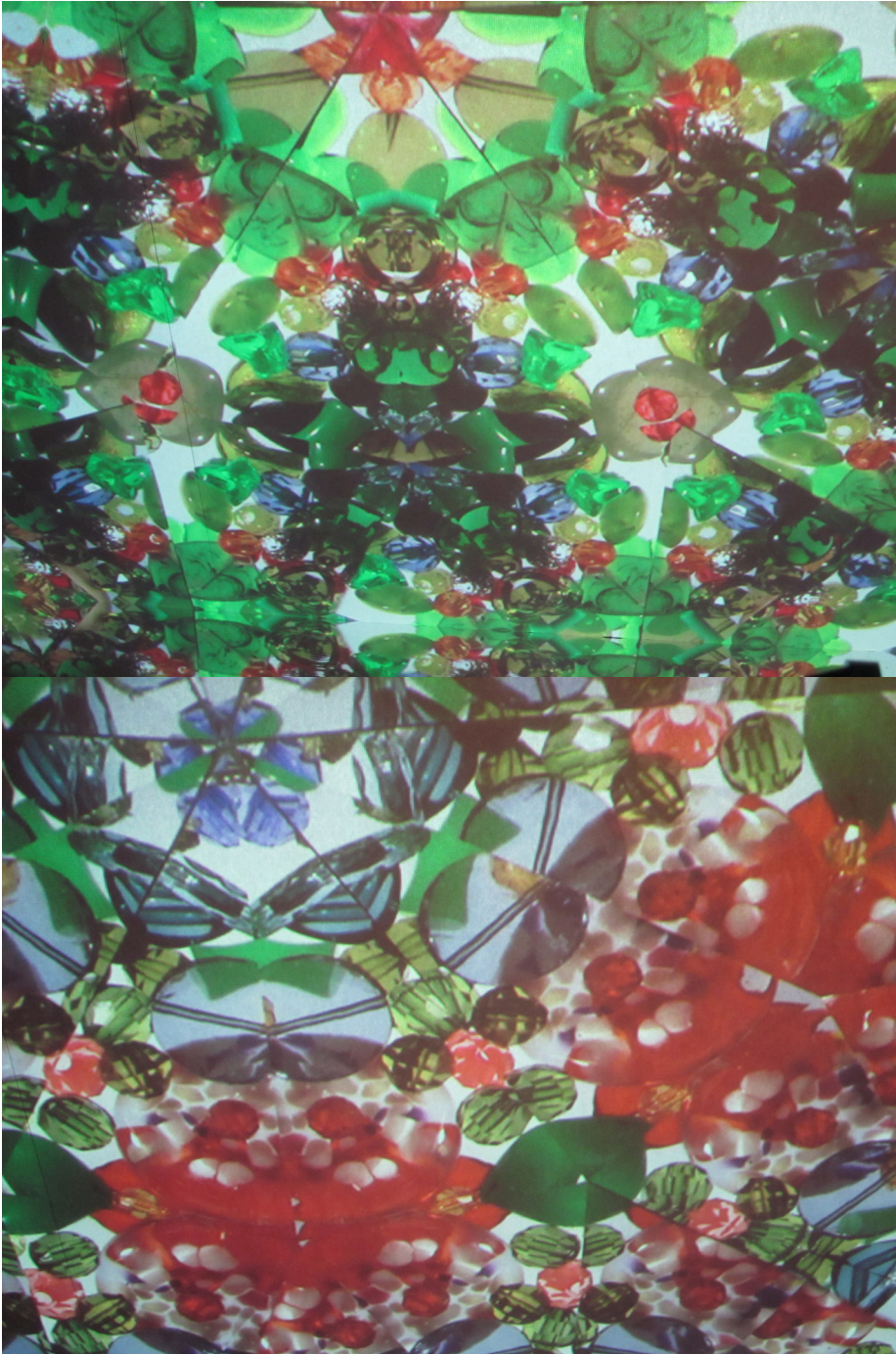


写真 19,20
下部の映像例



写真 21 京都市美術館での展示風景



写真 22 カレイドスコープ スケープ内部

写真 23 ファサードのライト



写真9 太鼓を叩く参加者